

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Incidence of Domestic Violence Against Pregnant Females After the Great East Japan Earthquake in Miyagi Prefecture: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 東日本大震災後の宮城県被災地における妊婦へのドメスティックバイオレンスの実態調査

ユニットセンター(UC)等名: 宮城UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Disaster Medicine and Public Health Preparedness 巻: 11 頁: 216 年: 2017 月: 4

筆頭著者名: 櫻井 香澄

所属UC名: 宮城UC

目的:

東日本大震災後の宮城ユニットセンター(UC)調査対象地域でのドメスティックバイオレンス(DV)の実態を明らかにする。

方法:

2011年6月以降回答・2011年12月までに出産した妊婦、全国(宮城・福島UCを除く)6596名、宮城県内陸部672名、沿岸北部204名、沿岸南部128名を対象に身体的DVと身体的DVの頻度を調査した。

結果:

身体的DVの頻度は、全国(1.5%)と比較して、宮城県沿岸北部(5.9%)は有意に高かった。宮城県内陸部(1.3%)沿岸南部(1.6%)は有意差はなかった。精神的DVの頻度は、全国(13.8%)と比較して、宮城県沿岸北部(15.7%)、宮城県内陸部(15.2%)、沿岸南部(18.8%)いずれも有意差はなかった。

考察:(研究の限界を含める)

災害と妊婦へのDVに関する調査は、世界で初めての報告である。震災後に絆が注目されたが、宮城県被災地では、全国と比較してDV頻度は有意に低くなく、むしろ身体的DVは宮城県沿岸北部で高かった。このことは、被災地ではDVから推定するにパートナーとの絆は高くはなく、むしろそのケアが必要なことを提示している。本研究の限界として、震災前後の比較ができなかったため、震災による影響なのか等の検討はできなかった。

結論:

東日本大震災後の宮城県被災地では、全国と比較してDV頻度は有意に低くなく、むしろ身体的DVは宮城県沿岸北部で高かった。